



わかくさだより

入間わかくさ
高等特別支援学校
TEL: 04-2941-5771
FAX: 04-2964-7744

令和8年2月2日 第12号

ホームページアドレス: <http://www.wakakusa-sh.spec.ed.jp>

安心

校長 遠藤 智久

冬休み中に行われた校内の研修会で、大学の先生から講義をしていただきました。その中で「安心できる関係」の重要性を教えてくださいました。安心できる大人がいてくれることで子供たちは外の世界へ一歩踏み出し挑戦していけるとのことでした。(このことについては1月30日(金)発行の、地域支援・連携部通信「リンク」で紹介されています。)

偶然ですが、年末から年始にかけて、私が受けた別の研修等で「安心できる関係」と同様の趣旨の話が複数回聞く機会がありました。特に印象深かったことは、ビジネスの世界においても「安心できる関係」は大事であるとのことでした。「安心できる関係」の構築は経済的な利益にもつながるのです。

例えば企業において「こんなことを言うと馬鹿にされるのではないか? 怒られるのではないか?」等という心配がないからこそ、

ケース① ミスをしてしまった。

→すぐ報告する。→被害を最小限度に抑えるとともに、即時適切な対応策を取る。

→かえって信頼を得る。

ケース② 重大な勘違いをしたまま行動を起こそうとしている人がいる。

→すぐに指摘する。→大惨事を免れる。

ケース③ 新しいアイデアを思いつく。

→同僚と相談し上司に提言する。→対話によるブラッシュアップをする。

→新しいビジネスチャンスに広がるかもしれない。

(ビジネスの世界ではほとんどの企画・商品は没になるようですが、「打率」は低くとも、「打数」が多ければチャンスは生まれます。どこに「ヒット」企画・商品が埋もれているか分からないからです。)

「安心できる関係」は営利を目的とする企業においても、その繁栄・没落を左右する大きな要因になるとのことでした。

そもそも、集団を含む他者との関係において「安心」は人間が(更には「哺乳類の」と言っても良いかもしれませんが)生存するための本能に関わる大前提とも言えそうです。例えば「赤ん坊が泣く」ということも、捕食者に自分の居場所を教えるというリスクを伴うはずですが、「泣くことで誰かが自分にとって良い対応をしてくれる」という絶対的な安心を前提とする本能的行為です。

つまり、「安心」は個人にとっても組織にとっても重要なのです。

私たちの学校はどうでしょうか?

本校は明るい雰囲気があります。失敗を恐れたり、馬鹿にされたり、否定されたりする心配もありません。だから様々なことに積極的に取り組みます。失敗をしても失敗から学び再び挑戦できます。だから、本校の教育活動は素晴らしいのです。今後も、ポジティブな言動を心掛けながら、「安心」を皆で作り上げ、互いに高めあい成長してまいりましょう。

